

明日 への 話題

成長経済から 成熟社会へ



青山学院大学
教授

さかきばら えいすけ
榊原 英資

世界経済の状況が思わしくない。10月初めに発表されたIMFの世界経済見通し（WEO）では、2014年の成長率は3.3%と2013年と変わらない。期待されていた景気回復が進展していないのだ。又、WEOでは「下振れリスクが増大」しているとも指摘している。最も好調なアメリカ経済でも2014年の成長率は2.2%。1990年代の平均成長率3.24%を1%以上も下回っている。

マイナス成長からの回復が期待されていたユーロ圏の2014年の成長率も0.8%と1.0%に届いていない。ドイツ経済の成長率は1.39%とそこそこだが、南ヨーロッパは不況が続いている。フランスは0.37%、イタリアはマイナス0.17%だ。なんとかユーロ圏全体ではマイナス成長は回避したものの、南欧を中心に危機はまだ乗り切れていないようだ。

新興市場国もかつての勢いを失い始めている。1980年から2011年までの32年間平均で10.0%の成長率を達成した中国も2012年からは成長率を7.0%台に下げている。おそらく、10%前後の高度成長期は終わり、平均6～7%の安定成長期に移行したのだろう。1980年から2011年まで平均6.2%の成長率を経験したインドも2012年には4.74%と4%台に成長率は後退している。インド人民党（BJP）のナレンドラ・モディの首相就任で期待は高くなっているが、それでも2013年は5.02%、過去の平均6.2%には届いていない。

おそらく、世界経済は減速局面に入り、特に先進国は「ゼロ成長」と「デフレ」又は「デシインフレ」の時代に入ったのだろう。多少楽観的に見れば、日本を含めた先進国は成長の段階から成熟のステージに入ったとすることができるのだろう。成熟経済の成長率は過去20数年の日本のように1%を切るものが少なくない。2014年の成長率は日本が0.9%、ユーロ圏は0.8%と予測されている。移民経済であるアメリカは別にして、成熟先進国はゼロ成長の時代、成熟の時代に入ったのだろう。成熟経済として見れば日本のパフォーマンスは決して悪くない。森林率68%の森と水の国だし、豊穡な海に囲まれている。犯罪率もOECD諸国の中で最低の安全な国。平均寿命も世界最高で日本人は世界一健康な国民。成長率が下ったからといって決して悲観的になることはないだろう。